

# FAIRPLAY NEWS

フェアプレイで日本を元気に  
あくしゅ、あいきさつ、ありがとう



## ペットボトルに託した仲間への想い



## オリンピックへの道 空手 植草歩選手

### 子供の頃、楽しくて夢中になった空手。その気持ちを忘れずに五輪を目指す。

小学校3年生の時に始めた空手。戦う時の相手との駆け引き、勝った時の喜び、負けた時の悔しさもあるけれど、空手が好きだから植草選手は続けてきました。しかし、日本を代表する選手になり、勝負へのプレッシャーから、空手がつらく感じるようになった時期もありました。そんな時、子供たちが空手を楽しそうにやっている姿を見て、「空手は楽しくやるものだ」ということを思い出したそうです。そして迎えた、2015年の日本選手権大会。激しい中にも笑顔を見守る植草選手が、優勝を飾ったのです。2016年には世界選手権大会も優勝。2020年の東京オリンピックに向けて、植草選手に大きな期待が集まっています。



## わたしのフェアプレイ 木村敬一(障がい者水泳)

### 一人じゃない。それが、大きな力になる。



2015年の世界選手権では2種目で金メダルを獲得。しかし、リオデジャネイロパラリンピックでは、金メダルにあと一步及びませんでした。最初はその結果を受け入れることができませんでした。最近やっと「まあ、頑張ったな」と思えるようになれました。それも、選手としても障がい者としても、

僕のことを理解してくれて、一緒に戦ってくださったコーチのおかげです。金メダルという結果は出せなかったけれど、充実した悔いのない時間を過ごせたからこそ、自分を認められるようになったと思います。「一人じゃない」。そう思えることが、僕の人生の大きな力になっています。

1990年生まれ。2歳のときに視力を失い、10歳で水泳と出会う。2008年の北京パラリンピックで5種目に出場。4年後のロンドン大会では2つのメダル、2016年のリオデジャネイロ大会では、4つのメダル(50m自由形・銀/100mバタフライ・銀/100m自由形・銅/100m平泳ぎ・銅)を獲得した。

※日本体育協会の広報誌「スポーツジャパン3・4月号」に詳しい記事を掲載しています。

